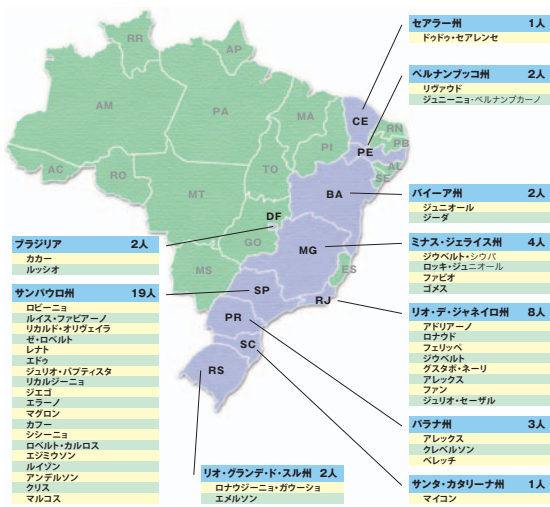


現ブラジル代表 選手の出身は どの州が多い？

ワールドカップで過去5回の優勝を誇り、来る2006年大会でも優勝候補筆頭とされているブラジル代表だが、そのほとんどの選手はヨーロッパのクラブで活躍している選手で構成されているが、彼らの出身地がどこを示してみたのが右の地図だ。この地図から分かるように、その多くはブラジルの二大都市、サンパウロとリオの出身であることが分かる。

実は、かつてブラジルサッカー界では、代表選手は基本的にこの二つの州から選出されていた。国土が広く、現在のように全国規模で大会が開催されなかった時代ではそれも当然のことで、地方出身の有望選手は、ほとんどサンパウロリオのクラブでプレーしていたため、代表監督が地方クラブを見守る必要もなかったのだ。

時代が変わり、今は地方からも代表に招集されることもある。だが、それでも二大都市中心でサッカー界が回っているのだ。



ブラジルの監督 ライセンス制度は どうなっている？

ヨーロッパや日本ではプロのチームの監督をするライセンス制度があるが、ブラジルではその手の資格はない。よって、監督の多くは元選手や体育大学出身者の2

パターンとなっている。ちなみに、現代監督のバレイラは後者に当たる。

そのせいか、ブラジルは監督業に関して言えばヨーロッパから大きく遅れをとっている。ほとんどの監督は自己流で指導を行っているのが実情だ。ただし、近年はルシエンブルゴやフェリッペのように、細かい戦術を要求する監督も増えているという傾向も忘れてはいけない。



現代監督のバレイラは体育大学出身の監督。

TOPIC 2

●ブラジルのサッカーくじ事情は？

ブラジルには、「Lotogol(ロトゴウ)」と呼ばれる5試合が一緒になったサッカーくじがある。5試合とも当たれば、4万レアル(約200万円)が賞金となるサッカーくじなのだが、実は余り人気がない。というのも、他にナンバーズのような一般のくじが7種類ほどあり、中でも「メガ・セナ」という6つのナンバーを当てると1億の賞金は当選者がいないと積算され、莫大な金額になるため、そちらに人気が集中してしまっているのだ。

そこで現在は「チーム・マニア」という新しいサッカーくじの導入が検討されている。これは収益の何%かをクラブの借金返済に回すというもので、まもなく法的な認可が下りそうな状況となっている。

女性レフェリーを いち早く導入した ブラジルサッカー

ブラジルにはFIFA認定のレフェリー 26人が存在するが、うち女性が7人を占めている。女性レフェリーとしてのパイオニア的存在が、シウヴィア・レジーナ・ジ・オリヴェイラさん、41歳だ。1997年、サンパウロ州女子選手権で初めてレフェリーとして公式デビューし、その後CBF認定に昇格。今ではFIFAも認定するレフェリーだ。男子サッカー界への門戸は2000年のサンパウロ州選手権、セリエB 1で、初めてアシスタントレフェリーを務めたことが話題になった。

そして2003年6月、全国選手権セリエAの試合、サンパウロ対グアラニ戦で、レフェリーのシウヴィア、そして2人のアシスタントレフェリーと、すべて女性が占められたのである。その後、シウヴィアは南米サッカー連盟主催のコパ・スタメリカーナのレフェリーも務めるなど、そのクオリティーも評価されている。